

企業名： UBE 株式会社

レポート名： 統合報告書 2024

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。UBE 株式会社は企業が 2030 年に目指す姿として「地球環境と人々の健康、そして豊かな未来社会に貢献するスペシャリティ化学を中核とする企業グループ」という長期ビジョンを据えている。統合報告書で UBE が述べている「将来の姿」は全てが 2030 年を基準としていた。この長期ビジョンの実現に向けて二つの成長戦略を打ち出している。「スペシャリティ化学の成長」と「地球環境問題・カーボンニュートラルへの挑戦」である。これらに関して「ステークホルダーに向けた CEO メッセージ」にて記述されていた。前者の「スペシャリティ化学の成長」に関しては、これを達成するための具体的な事業展開決定事項が記載されていた。増産・減産の決定、設備投資意思決定などが理由づけで丁寧に説明されていた。後者の「地球環境問題・カーボンニュートラルへの挑戦」に関しても「温室効果ガス 50%削減」などの詳細な目標をたてて取り組みを説明していた。統合報告書の中でこの 2 点が軸となって数値データや事業内容が細かく説明されており、将来の姿を理解するのに必要な情報は十分にあると言える。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

ある程度理解できる。UBE 株式会社の統合報告書では、各スペシャリティ事業の製品特性・社会、市場分析・成長戦略等を明示している。どのような事業内容を展開していて、どこに UBE の強みがあり、社会にどのような価値を提供できるのかがわかるように記載されている。

具体的に言えば、スペシャリティ事業の一つである「ポリイミド製品」。これは大型液晶ディスプレイのフィルムや有機 EL ディスプレイ向けの基盤などに使われる化学製品だ。UBE は原料からワニス、フィルム、パウダーまでを一括生産する世界唯一のメーカーであり、自社原料と独自の成形加工技術により他者とは差別化された特別な製品を生み出していることが強みだと明記されている。このようにその他のスペシャリティ製品一つひとつを市場分析し製品の特性を活かした独自の開発・生産が行われており市場における競争優位性は大きいだろうと判断できる。ただ単に「需要が高まっている」や「高いシェアを誇っている」という文言が見られるだけで、数値として表示されていないため競争優位性の確実性にはいささか疑念が残る。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

あると理解できる。各スペシャリティ事業の市場分析・成長戦略を見ると、持続性がある

と判断できる特徴が多く見られる。各スペシャリティ製品にUBEの強みが記載されており、「独自」や「差別化」や「唯一」といった言葉が多く見られる。すでに独自技術から利益を生み出していることから競争優位性に持続性もあると判断できるだろう。また、設備投資や新規分野の開拓も積極的に行なっていると判断できる。工場の生産稼働率の上昇幅を+何%増と言った形で明記しており今後の事業成長にも期待できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できるとはあまり思わない。UBEの統合報告書の人的資本に関する記載のほとんどが、人材育成に関するのではなく、雇用や働く環境づくりに関することであった。グローバル人材や女性、障がいの雇用に積極的に取り組んでおり、社内の多様性拡充を推進している。また、社員の働きがい向上に向けた取り組みや健康経営と言った働く環境を整える施策を実施している。一方人的資本の価値向上に関する記載は少なかった。もちろん社内の多様性や働く環境づくりは人的資本の価値向上につながらないとは言えない。しかし、直接的に人的資本の価値向上を図るためには、社員個人個人の成長、スキルアップを促す施策を充実させるべきである。UBEではTOEIC受験を実施するなどのグローバル人材育成や社内副業制度の導入を検討するなどのキャリアオーナーシップの施策を打ち出しているが、社員個人個人のスキルアップ制度が充実しているとは言い難いと感じる。記載内容が少なく、何を目的にそのような施策をしているのかがはっきりと理解できず、自分が入社した後の自身のスキルアップ方針がイメージできなかつた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

UBEが目指している将来の姿と、それを達成するための目標が「スペシャリティ化学の成長」と「地球環境問題・カーボンニュートラルへの挑戦」という2軸で説明されており、この2軸をベースとして統合報告書全体が様々なデータ・表グラフを用いて一貫して説明されており非常にわかりやすく流れが掴みやすいものだった。また、情報の大部分がCEOや社取などの会話を書き起こしという形で表示されており、会社の考え・意向がリアルに伝わってきた。しかし、データに関しては数値として表されていないところも多く、本当に書いておることが正しいのか花年が残る部分もあった。単に「需要が伸びている」や「高いシェアを誇っている」などと記載するだけでなく、実際にどれほどの需要があるのか、どのくらいのシェア率なのかなどの数値を記載することで情報の確実性が上がり、読者の信頼・信用を得ることができると感じた。

参考文献

https://www.ube.com/ube/assets/images/page/ir/ir_library/integrated_report/pdf/integrated_2024_jp.pdf

以上